

活動報告

公開講演会・ワークショップ

「タンザニアの生活・文化」

講師：アレックス・マキコティ（米国テキサス州ワイリー大学 准教授）
 司会：秋田 貴美子（愛知県立大学外国語学部国際関係学科准教授）
 日時：2018年10月2日（火）10:30-14:20
 場所：愛知県立大学長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール
 主催：愛知県立大学多文化共生研究所
 共催：同地域連携センター
 使用言語：英語、日本語（双方向の通訳あり）
 参加人数：講演 93名, ワークショップ 65名

前半の講演では、タンザニア出身で米国在住のマキコティ先生がご自身の波瀾万丈の人生について語り、人生で起こった出来事に触れながら分かりやすくタンザニアの生活・文化を紹介した。マキコティ先生は、タンザニア国民の8割が体験する貧困生活とはどういうものか、食生活、人間関係について、貧困層の子供達はどのように教育を受けるのかについて、また、先生ご自身は貧しい村の出身で、いかに米国で博士号を取得し米国の大学教授になることができたのかなどについて語った。この他、タンザニアの文化を3つの点から解説した。(1) 魔力信仰が生活・文化に与える影響について(タンザニアでは魔力を信じるタンザニア人が多く、魔力が日常生活・対人コミュニケーションに大きく影響する)。(2) タンザニア人の間接的な対人コミュニケーションの形と表現方法について。(3) タンザニア文化で非常に重要な非言語の役割と表現方法について。講演の後のワークショップでは、子供のしつけ、結婚式、パーティー、

魔力信仰の影響からくる偏見、考え方、人間関係、文化についての質問を参加者がグループやペアで考え、答えた。参加者の中に、本学国際関係学科の学生でタンザニアに一年間留学し、丁度帰国したばかりの学生がいたので、この学生がタンザニアで体験したカルチャーショックと、マキコティ先生が初めての日本で体験したカルチャーショックとを比較しながら、異文化比較の討論をすることもできた。この行事に参加した一般市民の感想は次の通りであった。「講師の人柄が良かった。分かりやすい英語だったので聴き取りやすかった。通訳の説明が分かりやすかったのでよく理解できた。タンザニア人から直接話し聞く機会などこれまで無かったので、大変有意義でタンザニアについての理解が深まった。キリマンジャロしか知らなかったが、文化と生活について理解することができた。」(文責：秋田貴美子)

